

強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。ついにセンター試験本番となりました。受験生の方は19,20日の二日間、今まで養った力をしっかりと出し切ってもらいたいと思います。そして、センター試験後には次の二次試験に向けての取り組みを本格化させましょうね。また、高1・高2の方はセンター試験・二次試験と続く受験の緊張感や雰囲気のようなものを、この時期是非体感しておきましょうね。1年後、2年後には皆さんが主役ですから。

さて、第17回となる今回は2012年の東大日本史の第4問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、1週間、しっかり考えてみてください。

【2012年度 東京大学 文科前期 第4問】

次の表は、日本の敗戦から1976年末までの、中国およびソ連からの日本人の復員・引揚者数をまとめたものである。この表を参考に、下の(1)・(2)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。

地域	軍人・軍属	一般邦人
中国東北地方	52,833人	1,218,646人
東北地方以外の中国と香港	1,058,745人	496,016人
ソ連(旧日本帝国領を除く)	453,787人	19,155人

- (1) 第二次世界大戦の終結ののち、日本の占領地や植民地などにいた日本人軍人・軍属の復員とそれ以外の一般邦人の引揚げが始まった。多くの日本人は終戦の翌年までに帰還したが、中国とソ連からの帰還は長期化した。
- (2) ソ連政府は1950年に「日本人捕虜の送還を完了した」と宣言し、日本人の送還を中断した。その後、日ソ両国の赤十字社の交渉を通じて1953年から帰還が再開されたが、日本側の要望通りには進展しなかった。ほとんどの日本人の帰還が実現したのは1956年のことであった。

設 問

- A 表に見るように多数の一般邦人が、中国に在住するようになっていたのはなぜか。20世紀初頭以降の歴史的背景を、4行以内で説明しなさい。
- B ソ連からの日本人の帰還が、(2)のような経過をたどった理由を、当時の国際社会の状況に着目して、2行以内で説明しなさい。